



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	資源空間の変容をめぐる人びとの抵抗と順応：沖縄の事例から〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	高崎, 優子
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第13417号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74357
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Yuko_Takasaki_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学） 氏名： 高崎 優子

主査 教 授 宮内 泰介
審査委員 副査 教 授 小田 博志
副査 准教授 笹岡 正俊

学位論文題名

資源空間の変容をめぐる人びとの抵抗と順応ー沖縄の事例からー

・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、沖縄の今帰仁村古宇利島、国頭村安田集落、うるま市浜比嘉島という3つの地域における長期にわたるフィールド調査の成果であり、人と自然環境の関係の変化の中で、地域住民たちがどのような対応をしてきたのかについて環境社会学的に研究したものである。論文の意義は、以下の3点である。

第1に、沖縄については、民俗研究や歴史研究において多くの蓄積があり、加えて、近年では自然環境についての自然科学的研究も蓄積しつつある。しかし、自然と人、自然と社会の関係についての研究については、いまだ研究蓄積が乏しい。本論文は、沖縄における自然環境と地域社会の関係の詳細な歴史記述を踏まえた社会学的研究として、そこに貴重な貢献をするものとして評価できる。

第2に、本論文は、とりあげた3つの地域における人と自然の関係史について、膨大な聞き取りデータと資料（とくに長期のフィールドワークによって初めて得られるような一次資料）の批判的分析によって詳細な記述がなされている。本論文で初めて明らかにされる事実も多く、資料的な価値は高い。浜比嘉島の古老漁師とともに作りあげた微小地形についての詳細な地図と記述、国頭村安田集落における林産物利用・植物利用の詳細なリストや歴史叙述などは、その顕著な例である。

第3に、本論文は、これまで環境社会学において研究蓄積のある、地域社会による共同の自然資源管理というテーマについて、いくつかの新しい視点でアプローチしている。一つには、短期的な資源管理の成功・不成功を軸に見るのではなく、長期的な視点から、住民主体の資源管理が可能になるような地域社会のしくみに注目していることである。古宇利島の事例では一見不合理に見える資源管理が、しかし、地域の中の文脈に即したしくみになっていること、浜比嘉島では、海のモノカルチャー化が進む中で、ハーリーという装置によって、リスクを共同で回避しようとする営みが存在することなどを明ら

かにし、社会科学的な自然資源管理論にまた新しい視点と知見を加えた。さらに、国頭村安田集落の事例からは、外部からの価値に対して対抗する地域の文脈がないことが地域からの再文脈化を図れない事態を生むことを明らかにし、地域資源管理の成功例でも失敗例でもない事例についての新しい知見を提示した。

・学位授与に関する委員会の所見

審査委員会は、上記のような学術的価値、とくに詳細なフィールドワークによる成果として資料的な価値が大きいことを評価する。

一方で、本論文のいくつかの不足点も指摘することができる。第1に、いくつかの鍵となる概念（たとえば「コンテキスト」、＜生＞など）について、十分な議論や定義がなされていないこと、第2に、詳細な記述と意欲的な理論化の反面、論文全体で体系的な議論がなされているとはいいがたい側面があることである。

しかし、これらの問題点は、今後の研究によって解消されることが期待されるものであり、本論文の意義を損なうものではない、というのが審査委員一同の意見である。

以上を総合的に評価し、本審査委員会は全員一致して高崎優子氏に博士（文学）の学位を授与することが妥当であるとの結論に達した。